

## マーケット概況（2025年8月）

8月の債券相場は、10年379回債が前月末変わらずの1.545%で取引を開始した。7月末の金融政策決定会合後の会見で植田総裁が利上げに慎重な姿勢を示したことから底堅く推移するなか、1日発表の米国雇用統計が市場予想を下回り過去分も下方修正されて米国債利回りが急低下すると相場は急伸し、10年379回債の利回りは1.465%まで低下した。5日の10年債、7日の30年債入札は波乱なく通過したが、買い一巡後は戻り売りから上値の重い展開が続いた。その後は、日経平均株価が連日の大幅上昇となったことに加え、ベッセント米国財務長官が日銀に対しインフレをコントロールする必要があると発言したとの報道が伝わると相場は急落した。国内の政局不安を背景とした財政拡張懸念の高まりから超長期債も売りが優勢となり、22日に20年193回債はカレントとして1999年11月以来の水準となる2.665%まで利回りが上昇した。財政不安と早期の利上げ懸念を背景とした売りはその後も継続し、27日に10年379回債は2008年10月以来の1.630%、30年87回債は発行開始来最高となる3.235%まで利回りが上昇した。月末にかけては超長期債の発行減額報道から買い戻され、結局10年379回債は1.600%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

8月の短国市場は3Mゾーンの好需給が継続、1日の3M1322回債入札で最高落札利回り0.4368%と前回入札と同水準で決まり、8日の3M1324回債入札は0.4242%とやや金利低下した。7日の6M1323回入札は水準調整の売りが入り、前月比約6.0bp金利上昇した0.5046%だった。月半ばからは日銀の10月利上げ思惑が再燃したことで、15日の3M1325回債入札は0.4457%、19日の1Y1326回債入札は0.7049%と金利上昇した。月末にかけて22日の3M1327回債入札は0.4607%となり、29日の3M1328回債入札では0.4818%と年初来の最高利回りを更新した。落札利回りは2008年以来の水準となった一方で、入札後には持ち直す動きが見られ、3Mゾーンの需給が逼迫しつつある様子が伺えて今月を終えた。

### <一般債市場>

8月の定例地方債は、5年債・10年債ともに前月比2bpタイト化となり、5年債が国債カーブ対比+13bp、10年債が国債カーブ対比+14bpの条件決定となった。10年定例政保債は前月比2bpタイト化の国債カーブ対比+12bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。入札物の大阪府債は前月債と近いスプレッド水準の条件決定となったが、依然として定例債の起債レベルよりタイトな状況が継続している。8月の事業会社債の発行額は、大型起債が高速道路会社債のみだったことから、3,567億円と2020年8月の2,530億円以来の低水準となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#379	1.545(1日)	1.465(4日)	1.630(27日)	1.600(29日)
#378	1.535(1日)	1.450(5日)	1.605(27日)	1.585(29日)
#368	1.290(1日)	1.215(5日)	1.395(27日)	1.370(29日)
#179(5Y)	1.080(1日)	0.990(4日)	1.160(26日)	1.140(29日)
#193(20Y)	2.510(1日)	2.490(6日)	2.665(22日)	2.595(29日)
#1317-#1323 TDB(6M)	0.490(8日)	0.485(8日)	0.500(20日)	0.490(20日)
#1322-#1328 TDB(3M)	0.400(4日)	0.395(8日)	0.480(29日)	0.470(29日)